

行方不明を防ぐための ネットワークづくり



兵庫県神戸市北区 五葉あんしんすこやかセンター
(委託型 地域包括支援センター)
センター長・保健師 清水 邦子

兵庫県神戸市の概要

平成30年2月現在



総人口	1,540,025人	高齢者人口	422,630人
高齢化率	27.44%	面積	544.56km ²
日常生活圏域数	78	地域包括支援センター数	76

認知症地域支援推進員 102名

区役所保健センター11名、あんしんすこやかセンター83名、こうべ認知症生活相談センター3名、認知症疾患医療センター5名

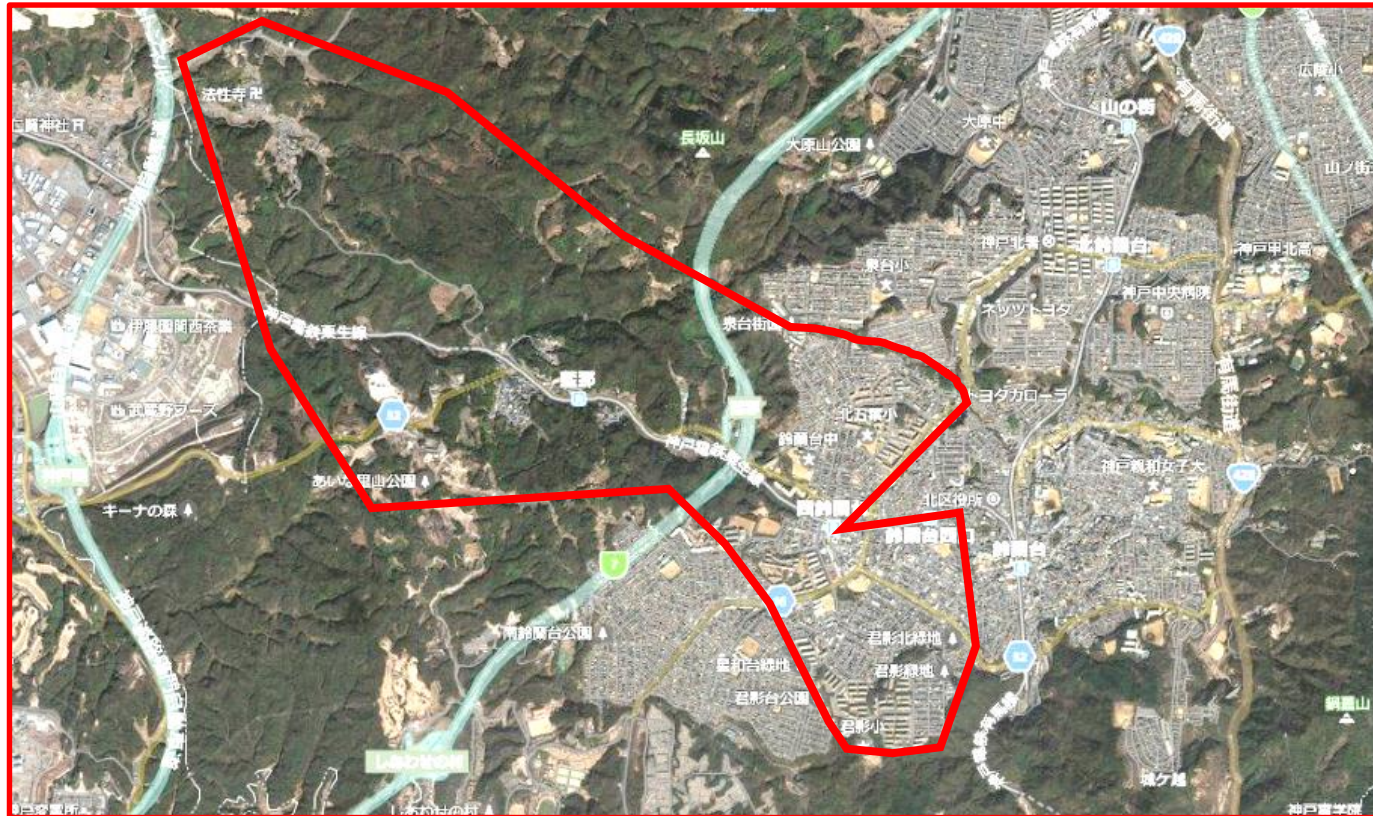
地域の特徴 兵庫県南部に位置する兵庫県の県庁所在地。9つの区から構成される政令指定都市。海と山の迫る東西に細長い市街地を持ち、神戸港を有する日本を代表する港町。1995年に阪神・淡路大震災に被災。H30年4月 神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例を施行。



五葉あんしんすこやかセンターの概要

- ◆平成18年4月 神戸市より委託
(運営法人 社会福祉法人神港園)
- ◆人口： 19,341人
- ◆高齢者人口： 6,898人

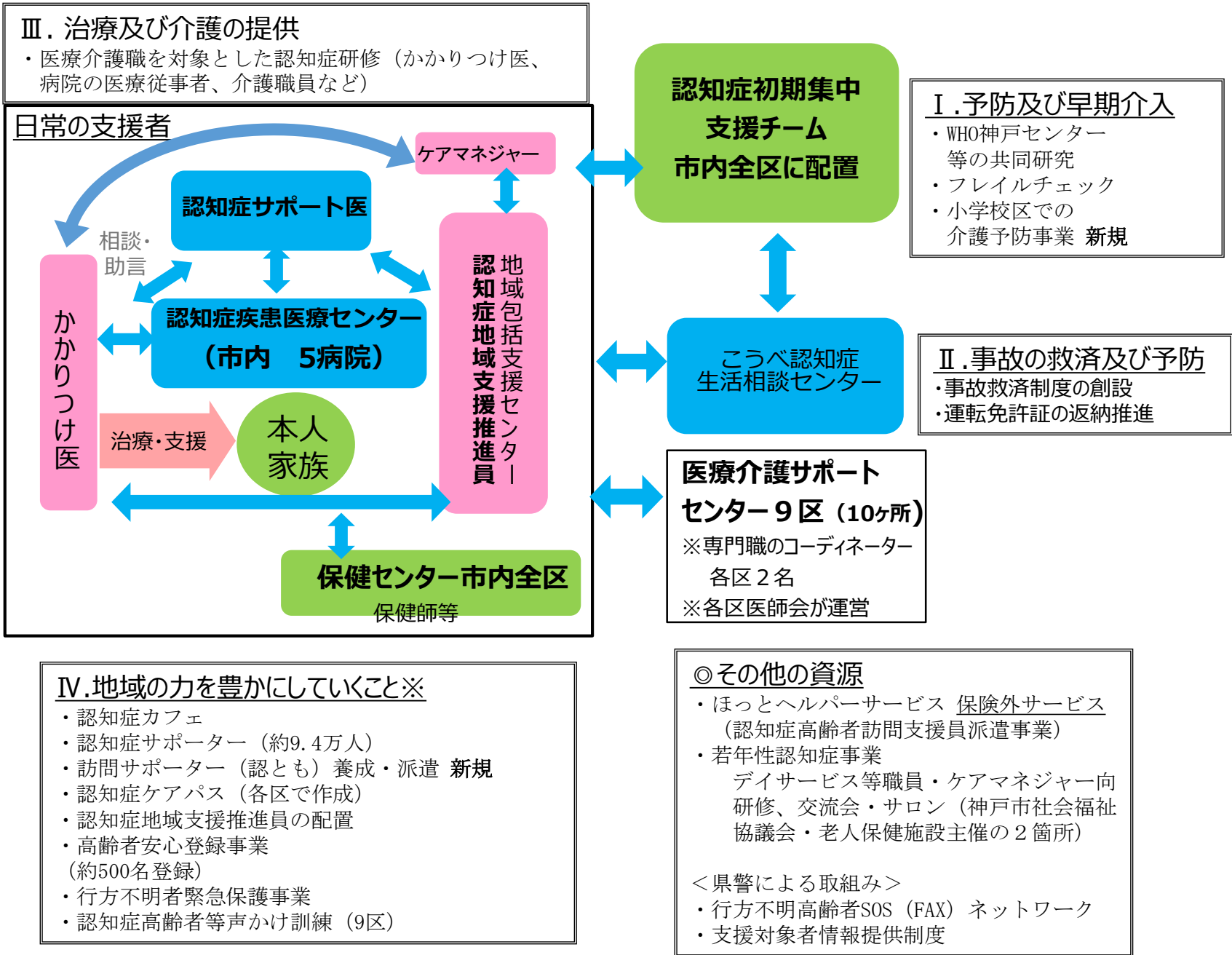
	高齢化率
神戸市	27.44%
神戸市北区	29.42%
当センター圏域	36.67%



(平成30年2月現在:神戸市HPより)



神戸市の認知症施策の体系 (事業は30.3月末現在)



神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例

平成30年4月1日施行

(目的)

認知症の人にやさしいまちづくりの理念を定め、市の責務並びに市民及び事業者の役割を明らかにするとともに、施策の基本となる事項を定め、もって**認知症の人にやさしいまちの実現**に資することを目的とする。

(基本理念)

- (1) 認知症の人の尊厳が保持され、その者の意思が尊重され、社会参加を推進し、**安全に、かつ、安心して暮らし続けられるまち**を目指すこと。
- (2) 認知症の人とその家族のより良い生活を実現するために必要な支援を受けられるよう、**まち全体で支える**こと。



神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例

(取り組むべき4つの柱)

【予防・早期介入】

- WHO神戸センター・神戸医療産業都市に関連する企業・大学・研究機関等との連携・協力

【事故に関する救済】

- 認知症高齢者が起こした事故に関する**事故救済制度**
- 自動車運転免許証の返納推進

【地域での治療・介護の場】

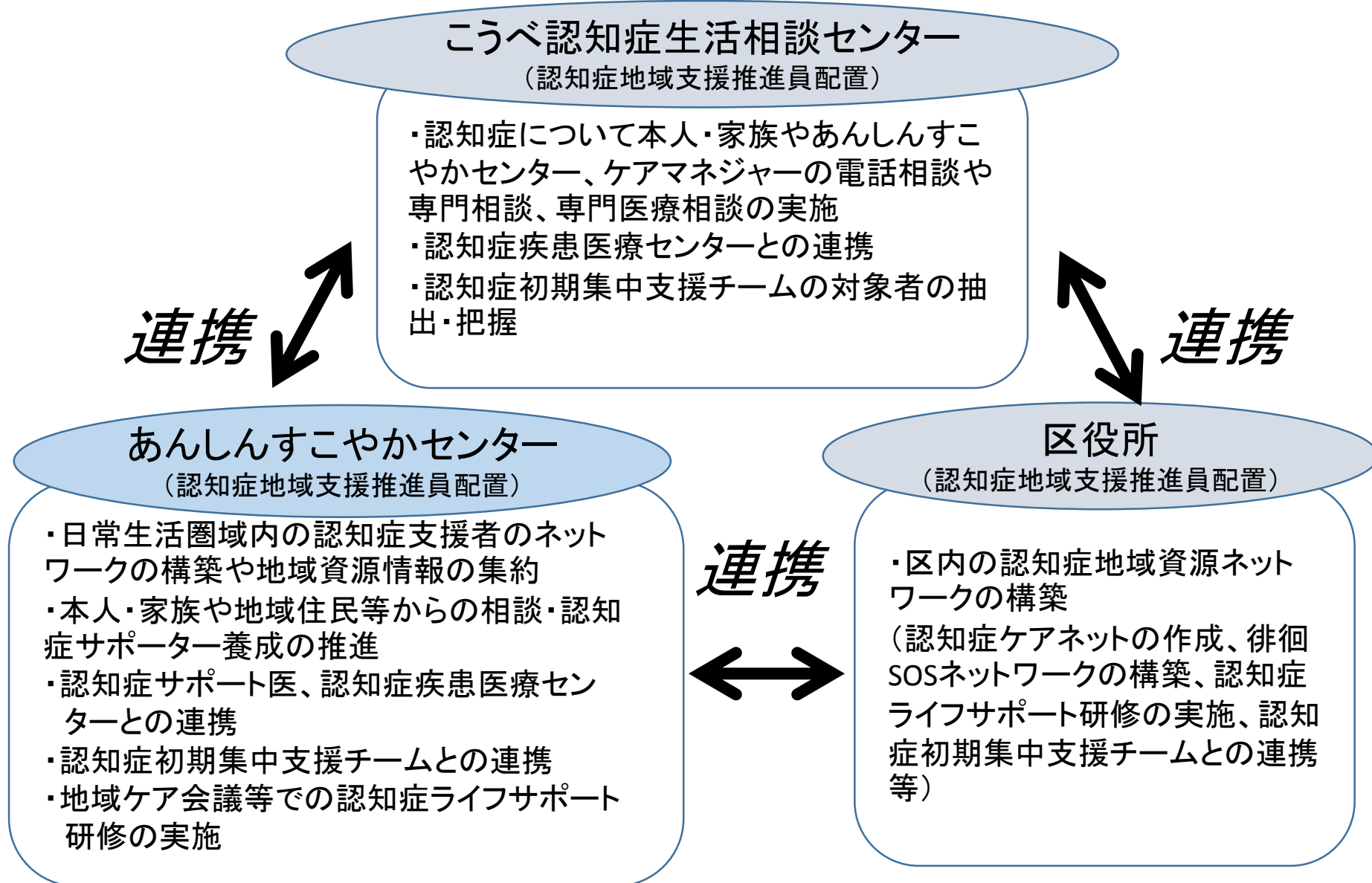
- 認知症疾患医療センター**の増設

【地域の力を豊かに】

- 認知症サポーター**の養成
- 中学校区での声かけ訓練
- GPS**を活用した行方不明者対策など



★各機関における認知症地域支援推進員の役割



当センターにおける認知症支援体制の経緯

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
認知症サポーター養成講座	← 実施中 →						
高齢者サポーター連絡会		← 実施中 →					
介護リフレッシュ教室	← 実施中 →						
地域ケア会議			← 実施中 →				
認知症地域支援推進員					← 実施中 →		
ケアパス(神戸市北区作成)						← 実施中 →	
神戸市高齢者安心登録事業 (SOSネットワーク 神戸市運営)						← 実施中 →	
N見守りネットワーク (行方不明を防止する)					← 試用 →		← 実施中 →

認知症への対応をセンター事業の重点課題とした背景

平成18年～
QOLが著しく低下した段階
ではじめて相談が寄せられ
るケース

平成25年
高齢者が森林に入り
命を落とす

そのため、H25年度より

「認知症への早期対応のためのネットワーク構築」

をテーマにM地区地域ケア会議を開催

警察



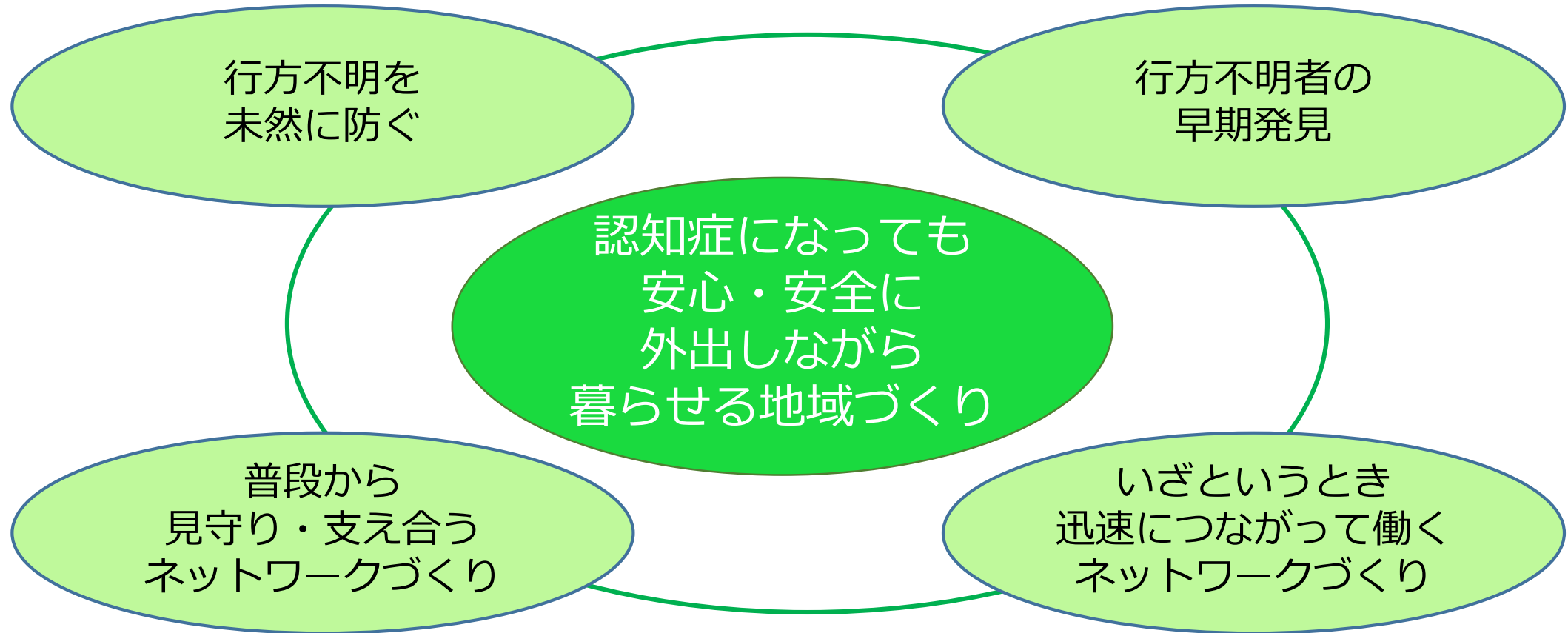
普段通っていない道を歩いたときに、自宅に戻れないのでは？と心配になる高齢者がいる

高齢者が行先不明になった時は、搜索範囲を限定するためにも、一刻も早く連絡がほしい

民生委員



地域ケア会議にて 認知症の人の見守り・SOSネットワークの イメージを関係機関に提示



行方不明になる恐れのある高齢者の見守りネットワーク構築について (平成26年まで)

2種類のネットワーク構築が必要

M地区
地域ケア会議
(H25年度より実施)

① 緊急性のないやさしい見守りネットワーク

課題

見知らぬ人に声をかけにくい

65歳以下の方への認知症の啓発が必要

地域包括支援センターの周知率が低い

取り組み

絆サポーター事業への取り組み

認知症サポーター養成講座の実施

地域のお祭りでの広報
全戸ちらし配布等

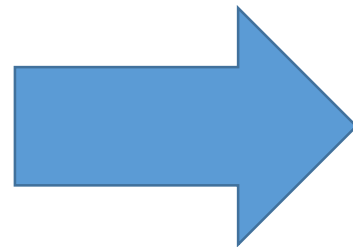
② 行方不明者を早期に発見するためのネットワーク

課題

発見された時に身元の確認に時間がかかり対応が遅れるケースがある

・安心カードとお薬手帳の常時携帯の広報用チラシの作成 (北区薬剤師会)
行先不明者の情報を関係機関に共有するシステムの再稼働 (北警察)

M地区 地域ケア会議で生まれたツールが 北区作成ケアパスへ掲載



神戸市北区作成 ケアパス

11 お薬手帳の便利な使い方

お薬手帳は1冊にまとめましょう。
(現在服用している薬の内容を「1冊」にまとめることが大切です。)

- お薬の飲み合わせがチェックできる
薬の重複や良くない飲み合わせを未然に防止できます。
- 体調変化が分かる
体調の変化や薬を服用して気になった事など、医師や薬剤師に相談したいことを記録しましょう。(医療者との連絡帳)
- 飲んでいる一般用医薬品(大衆薬)健康食品も記録しましょう。
予想もしていなかった良くない飲み合わせ、食べ合わせが見つかることがあります。
- 災害・緊急時に役立ちますので常時携帯しましょう。

安心カードとお薬手帳のコラボ(常時)携帯があなたの命を救います!!

神戸市消防局発行の安心カード + おくすり手帳 = お薬手帳のカバーに安心カードを挟み込んで下さい。

緊急時に自分の情報を自分で伝えられますか?

 そと持ち出し入れ、常時携帯して下さい。

「あなたにはいますか?かかりつけ薬剤師」

決めよう!	探そう!	活用しよう!
ふだんから利用する薬局を「かかりつけ薬局」として1つ決めておきましょう。 あなたが使用する薬を1つの薬局で管理することで、複数の医療機関から同じ薬が処方されたり、相互作用*が起きるのを防ぎます。 *注意を要する飲み合わせ	薬や健康に関して、何でも相談できる「かかりつけ薬剤師」を探しましょう。 薬のことはもちろん、健康に関する相談などにも応じます。	「かかりつけ薬剤師・薬局」をご活用ください。 あなたの健康サポーターとして、薬の記録を長期にわたり保存し、薬を安全・安心に使用できるよう適切な対処法を提案します。

神戸市北区薬剤師会

平成27年度 認知症地域支援推進員活動計画より

地域の課題・弱み

- ①高齢化率が高く、認知症高齢者も増加
- ②行方不明になった経験のある高齢者が増加
- ③地域の事業に参加できなくなった高齢者は地域で見守ってもらえる機会が減少する
- ④地域包括支援センター・認知症に対する啓発、特に若い世代への周知があまりできていない
- ⑤支援者も高齢化し、次世代の担い手が少ない

地域の強み

- ①民生委員、NPO法人など自分たちで高齢者を支えていきたいという想いを抱いている支援者が多い
- ②認知症サポーター養成講座を継続して実施
- ③見守り活動が活発（民生委員、友愛ボランティア、絆サポーターが事業）
- ④商店がまちおこし連合会を結成している。
- ⑤往診医、認知症サポーター医の存在

目標

家に戻れなくなる恐れのある高齢者のうち、地域、介護事業所に見守ってもらえる高齢者が増える

取り組み①：同じテーマでの地域ケア会議の継続運営 ～目標の共有～

◆テーマ

家に戻れなくなる可能性がある高齢者への支援体制

◆工夫

支援計画を**視覚化**。地域関係者、関係機関に、認知症になっても安心して暮らせる街づくりについて、目標、進捗状況を意識してもらうために、平成27年度以降、毎回、課題、目標、担当を記入した地域支援計画表を更新し、**毎回**提示。



M地区 認知症になっても安心して暮らせる街づくり 支援計画


赤字：H28年11月～H29年10月新たに追加分

大目標	課題	小目標	具体的なシステム・方法	担当	実施期間
緊急性のない、ゆるやかな見守りネットワーク(行先不明の予防)	認知症の啓発(特に65歳以下の世代に対して)	地域住民の認知症への理解が深まり、ゆるやかな見守り支援者が増える。 ・暖かい声かけの活発化。 ・見守り支援者のモチベーション維持	・認知症サポーター養成講座 ・その他研修会	・五葉薬局 北区薬剤師会 ・西鈴街おこし連合会 ・五葉あんしんすこやかセンター ・M小学校 K小学校 S中学校 ・S中、T中学校園域教員 (学校・自治会など地域団体と連携して実施)	H22年～
			・子育てはっとステーションでの啓発	・より処いっぶく	
			・紳サポーター M町H26年～ K町H28年1月～	・民生委員 ・M、Kふれあいのまちづくり協議会 ・自治会 ・その他地域団体 ・北区社会福祉協議会	H26年～
			・友愛ボランティア交流会など	・民生委員 ・北区社会福祉協議会	
			・協力事業者による見守り事業 ・協力事業者への挨拶	・北区社会福祉協議会 ・五葉あんしんすこやかセンター	
			・高齢者サポーター連絡会 (名称変更)	・五葉あんしんすこやかセンター ・北区社会福祉協議会 共催	H24年～
			・認知症高齢者声かけ訓練	・Mふれあいのまちづくり協議会 ・Kふれあいのまちづくり協議会 ・五葉あんしんすこやかセンター	H28年
	認知症相談ガイドブック「北区版」の活用	・北区 ・五葉あんしんすこやかセンター	H28年～		
	あんしんすこやかセンターの周知率が低い(特に65歳以下の世代)	・あんしんすこやかセンターの周知	・全戸配布(H27年 H29公園のみ) ・ふれまちニュース掲載(M町H27H28) ・お祭り(西鈴街おこし連合会)での広報 ・多世代への認知症サポーター養成講座 ・認知症予防講演会	・神戸市 北区 ・協力機関 ・五葉あんしんすこやかセンター	
	行先不明になるおそれのある高齢者とゆるやかな見守り支援者がつながりがもちにくい。	・地域で見守ってもらえる行先不明になる恐れのある認知症高齢者が増える。	・行先不明になる恐れのある方についてあんしんすこやかセンターへ連絡する。 ・情報集約・管理 ・情報共有シートの作成運用 ・広報 ・個別事例地域ケア会議	・地域住民 ・民生委員 ・かかりつけ医・歯科医院・薬局 ・ケアマネジャー ・サービス事業者 ・五葉あんしんすこやかセンター ・協力機関	H27年～
・地域の中で孤立し、重度化してから医療、介護につながる高齢者がいる。		・ふれあい給食会 ・ふれあい喫茶 ・ふれまち交流広場事業 ・健康講座 ・高齢者料理教室 ・その他	・Mふれあいのまちづくり協議会 ・Kふれあいのまちづくり協議会		

取り組み②： N見守りネットワークの構築

きっかけ

- ①行方不明届を出すのに時間がかかるので、行方不明になる前から警察に届け出ができるようにしてほしい。担当利用者が行方不明になり、地域の人に本人を見かけなかったか聞きたい時に、誰に聞いたらよいのかわからない。
(ケアマネジャー)
- ②見守りに協力したいけれど、誰が認知症になっているのかわからない。
(地域関係者)
- ③家族とケアマネジャーが本人と一緒に、「見かけたら声をかけてほしい」とデイサービスに挨拶に行ったが、その場にいる職員にしか周知されなかった。



平成27年度に、行方不明になる前より、高齢者と見守り支援者とをつなぐためのシートを作成し、試用を重ねる。

第8回地域ケア会議（H28年）にて、 実施要領とともに地域ケア会議発行 書式として正式運用開始！

- ◆本人、家族の希望に基づき介護事業所や地域の方、商店等情報共有先を決める。警察にも事前に情報共有をすることが可能。
- ◆行方不明になる可能性がある高齢者の相談に対して、神戸市安心登録事業とともに、情報提供を行う。
- ◆本人署名が不要のため、神戸市安心登録事業より登録のハードルが低い。

【作成までに難しかった点】

実施要領の確定、特に個人情報の安全管理

ご協力のお願い(案)

依頼者氏名()	代筆者氏名()続柄()
<依頼内容>	<input type="checkbox"/> 見かけたら、自宅へ帰るよう声をかけてほしい。 <input type="checkbox"/> 見かけたら、家族に電話が欲しい。 <input type="checkbox"/> 可能であれば、家族が行くまで一緒にいて欲しい。 <input type="checkbox"/> 可能であれば、自宅まで送って欲しい。
<依頼先>	
<input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 薬局 <input type="checkbox"/> 交番	<input type="checkbox"/> ふれあいのまちづくり協議会 <input type="checkbox"/> 医療機関() <input type="checkbox"/> 介護事業所() <input type="checkbox"/> 五葉あんしんすこやかセンター <input type="checkbox"/> その他()

【顔】

【全身】

本人	フリガナ氏名				様 (男・女)
	住所		電話番号		
	身長	cm	体重	kg	
	眼鏡	有 () なし	髪型	() ・白髪	
	聴力	普通 ・やや聞き取りにくい ・大声なら聞こえる ・筆談			
	持ち物				
	声掛け時の反応				
	よく行く場所 その他特徴				
家族・連絡先	氏名		続柄		
	住所				
	携帯電話		自宅電話		
担当ケアマネ	事業所名		氏名		連絡先

N見守りネットワークの効果と課題

【効果】

- ・登録すると安心（家族）
- ・地域事業で声をかけてもらえるようになり嬉しい（家族）
- ・記載されている本人がよく行く場所を重点的に搜索し、早期発見につながった（警察）
- ・サービス事業所から姿をみかけたと情報提供があり、本人が外出する時間、行先の情報が把握できた。（センター）

【課題】

- ・特定の居宅事業所からの依頼が多い。
- ・神戸市安心登録事業より登録者が少ない。
- ・家族の協力が得られないと、地域支援者との顔合わせが困難。
- ・書面のみで依頼されても、本人、家族と対面できないと協力が難しい。

（地域）

運用開始1年後に、運用における効果と課題を地域ケア会議にて検討。

- ◆神戸市安心登録事業(SOSネットワーク)とともに、わかりやすいチラシを作成。
- ◆担当圏域全域を対象とした地域ケア会議を実施し、N見守りネットワークについて広報とともに依頼があった時の協力を依頼する。

認知症になっても安心して暮らせる街づくり

N見守りネットワーク・
神戸市高齢者安心登録事業
を広げよう！

認知症になると、道に迷ったり、家がわからなくなったりすることがあります。認知症になっても住み慣れた地域で、安心して安全に暮らしていけるように、一人で外出するコースや緊急連絡先などを登録しておき、日頃から地域で見守りを行い、行方不明を防止していこうとする取り組みです。


N見守りネットワークと神戸市高齢者安心登録事業の違い～

登録すると

N見守りネットワーク

普段から地域で見守る

情報共有先を決めて、家族が情報共有シートを持って、協力依頼をします。
①協力先の個人、機関、団体が、日常生活の中で見守ります。
②行方不明時のために、警察へも事前に情報提供することができます。




行方不明になったら・・・

神戸市高齢者安心登録事業

①警察へ連絡、捜索してもらいます。
②認知症生活相談センターへ連絡、「捜索協力者」へ情報提供され、可能な範囲内で捜索に協力してくれます。

N見守りネットワーク

①警察へ連絡、捜索してもらいます。
②必要に応じて、情報提供先へ家族より連絡、可能な範囲内で捜索に協力してくれます。



地域の方や介護事業者が高齢者を見守ってほしいと希望されるご家族がおられましたら、五葉あんしんすこやかセンターにご相談ください。

五葉あんしんすこやかセンター TEL 596-5315

読売新聞
1月23 (火)

高齢者地域ケア
見守りなど報告
神戸・西鈴蘭台
神戸市北区の高齢者相談
窓口「五葉あんしんすこやかセンター」は22日、西鈴蘭台地区を対象にした地域ケア会議を同区南五葉のコープ西鈴蘭台で開催した。



写真Ⅱ。「高齢者が暮らしやすいまちづくり」をテーマに、関係機関の担当者らが見守り支援などについて

報告した。地域ケア会議は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域全体でケアの体制を構築していくための会議。今回は医院や薬局、老人クラブ、福祉関係者、新聞販売店などの約50人が出席した。地域の高齢化率は35・59%と、市平均(27・36%)を大きく上回っており、この日は、同センターが、認知症高齢者に対し、「緊急性のない日常的な見守り」と「所在不明時の早期発見」の2種類の支援に取り組んでいることを紹介した。同センターの清水邦子セ

ンター長は「参加団体のネットワークを、高齢者の安心な生活にうまくつなげてゆきたい」と話していた。

神戸新聞と読売新聞に掲載されました！

神戸新聞
1月23日 (火)

ケア会議 高齢者が暮らしやすい町へ 企業など取り組み報告

北 区
高齢者が暮らしやすい町づくりを考えた「地域ケア会議」が22日、北区南五葉1のコープ西鈴蘭台の集



高齢者が暮らしやすい町づくりを考えた会議＝北区南五葉1、コープ西鈴蘭台

会所であり、同区南部を中心とした7地域の企業・団体関係者約50人が参加した。

また、各団体も取り組みを説明。高齢者宅へ配達を行うコープこうべ共同購入センター北神戸(同区八多町中)が、宅配員の多くが市民救命士などの資格を持っている事例を報告し、神戸新聞鈴蘭台営業所(同区鈴蘭台南町4)は、配達時にポストに新聞が残っていた場合に家族へ連絡する登録サービスを紹介した。同センター長の清水邦子さんは「地域の団体どうしのネットワークを広げ、支援を拡充していきたい」と話した。(小森有喜)

高齢者とその家族を支援する事業所「五葉あんしんすこやかセンター」(北区南五葉1)が主催。65歳以上の高齢者の割合が地域で35%(市の平均は約27%)を上回ったことなどを受けて開かれた。同センターは高齢化の現状と対策を発表。高齢者見守りサービス「西鈴見守りネットワーク」や、認知症について住民の理解を促す

取り組み③：認知症サポーターの養成

担当圏域内での認知症サポーター養成講座（H23年～H29年度）
開催数・・・延べ28回（主催者は、住民組織、薬局、センター等）
延べ受講者・・・954名
特に、65歳以下の住民にも認知症を
理解していただくために

1校の校長先生が理解してくださったことによりにより広がる

平成28年度・・・圏域内の4小学校・1中学校
平成29年度・・・圏域内の2小学校・1中学校・圏域内全小中学校の先生が参加される研修会で、認知症サポーター養成講座を実施

寸劇、グループワークを用いてわかりやすく！ 寸劇には、先生、民生委員に協力を依頼



取り組み④：認知症の人への声かけ訓練の開催(H28)

- 目的：認知症の人、特に知らない人には声をかけにくい、という声があったため、その練習を行う
- 地域ケア会議に参加してくださっているふれあいのまちづくり協議会と共催



取り組み⑤：見守り支援者のフォローアップ。 ～認知症サポーター連絡会の開催～

◆平成24年度から29年度まで毎年1回、
計6回開催

◆テーマ

H26年 認知症の人への声のかけ方

H27年 認知症予防

H28年 認知症の人の介護

H29年 認知症に気づいたら



平成28年度の様子
・家族の体験談をきく
・ケアパスをみながら
サポーターの役割を
再確認。
・その後グループワークへ



H29年度 認知症疾患医療センター
認知症認定看護師を講師に招く。



行方不明になる恐れのある高齢者の見守りネットワーク構築について（平成29年更新）

認知症になっても安心して暮らせる街づくり

2種類のネットワーク構築が必要

①緊急性のないやさしい見守りネットワーク

課題

見知らぬ人に声をかけにくい

高齢者と見守り支援者をつなぐツールが必要

65歳以下の方への認知症の啓発が必要

あんしんすこやかセンターの周知率が低い

取り組み

絆サポーター事業への取り組み

認知症声かけ訓練

高齢者と見守り支援者をつなぐ情報共有シートの検討（N見守りネットワーク）

集い場の立ち上げ

認知症サポーター養成講座、キッズサポーター養成講座の実施

地域のお祭りでの広報全戸ちらし配布等

②行方不明者を早期に発見するためのネットワーク

課題

発見された時に身元の確認に時間がかかり対応が遅れるケースがある

・安心カードとお薬手帳の常時携帯の広報用チラシの作成
（北区薬剤師会）

行先不明者の情報を関係機関に共有するシステムの再稼働
（警察）

・神戸市高齢者安心登録事業
（神戸市）

成果

- ①地域ケア会議や地域行事を重ねるごとに顔の見える関係ができ、様々な機関と連携を強化することができた。
- ②地域の、認知症への理解が深まりつつある。気になる高齢者に声をかけることができたという声や、校庭に入ってきた高齢者へ子供達がやさしく声をかけたという報告があった。
- ③地域ケア会議に出席してくださっている医師との連携が強化され、心配な高齢者について連絡をくださるようになった。
- ④集い場が増えた。

難しかった点

- ①地域主体に活動していただくこと
- ②本人視点での情報収集が難しい。

推進員としての活動の課題



- 地域包括支援センター職員、介護予防支援事業所と兼務のため多忙。学校等、他機関との連携が強化されればされるほど、業務量が増えていく。

- N見守りネットワークを地域ぐるみの活動にしていくためにはどうしたら？？？

- N見守りネットワークの効果はどうやって評価を？

- 本人の声をもっと活かしたいけどどうしたら？



今後の活動・取り組みたいこと

- ①N見守りネットワークの強化
- ②認知症の人への声かけ訓練の実施
- ③認知症サポーター・キッズサポーター・ジュニアサポーター講座の継続
- ④家族への支援強化（リフレッシュ教室・認知症カフェとの連携強化）
- ⑤本人視点の活動へ
- ⑥認知症初期集中支援チームとの連携

（H29年度末より開始）

最後に・・・



- 住民、関係機関に目標を伝え続ける。
- 本人、家族、支援者の声に対し、小さなことでも、できることからはじめてみる。
- 同じ活動の積み重ねが大きな力へ。
- チームワークを大切に。
- 試行錯誤はつきもの。

ご清聴ありがとうございました。



**神戸に
遊びにきて
ください!**

**キタールさん
(神戸市北区のキャラクター)**

五葉あんしんすこやかセンター